



赤磐市はこのままでよいのか

“人いきいき まちきらり”は上出来の標語ですが、言葉だけに終わっていると思われませんか。赤磐市が発足してから やがて 20 年になりますが 年々良くなってきてでしょうか、ここに住んでよかった と実感できていますか。行政の課題への取り組みが鈍くて遅いと思っている人が多いのではないのでしょうか。

赤磐市は自然環境だけでなく、岡山市のベッドタウンとして社会的な環境にも恵まれていると思いますが、恵まれた条件が活かされてるのでしょうか。既定の枠にとらわれず、最適の施策を行政と議会が探求するよう期待しています。

以下、偏見を承知で私の考えを述べますが ご一読いただいて、ご感想などをメールか電話で承ることができれば幸いです。

- ① **ごみ処理**：「あかいわエコプラザ」は名前だけで エコロジーでもエコノミーでもない。その事実と改善案を次に述べる。
- a) 焼却灰と埋立てゴミを遠く奈良県御所市まで搬出するのをいつまで続けるのか。ごみは発生する地元処理が原則である。市内に**最終処分場**予定地が決まっているのに 10 年も建設が遅れている。市議会だより 73 号によれば、クローズド型に変更とか、処分先を複数チャンネル化してコンパクト化とかの議論があるが 今更何をと言いたい。岡山市・山の処分場を見学されれば目が覚めますよ。
- b) 22 トン/日 x 2 炉稼働は余裕があり、落葉や剪定屑、除草屑を可燃ごみから除外すれば**1 炉稼働**が可能に。1 炉づつの交互運転にすれば、設備の保守が行き届いて炉の寿命が延び 経費節減になる。
- 2 炉稼働ならば同規模の旧尾道市ごみ処理施設で隣接プールに温水を供給しているのが参考になる。[新しいごみ処理施設を見学して]
- c) **排熱利用**を近くの農業大学校と提携して研究目的の温室や 園芸に向けるべきである。現状の足湯は熱資源を安易に考えた無駄遣いではないか。

◇可燃ごみを飛躍的に減量できる**生ごみの燻溜処理**を提案してきたが、行政は聞くだけで取り組もうとしない。山陽団地在住の Dr. 矯 学真が考案し、テストプラントで機能確認後に日本国特許を取得しているが、スケールアップと連続運転へのメカニズム開発が必要である。実現すれば農村地域の野菜屑などを処理して産物を田畑に鋤き込めば自然農法に寄与する。全国に普及すれば画期的なことで、地場鉄工所の振興にもつながる。

燻溜：ごみを焼かずに燻すので排ガスと灰が出ない循環型処理である。煙を冷やして木酢液を得る。[燻ちゃんプロジェクト (要旨) 矯氏作成]

- ② **旧県道**：南の岩田から北の中島口まで、市役所・公民館・図書館に沿う基幹道路であり小・中学生の通学路でもあるが、旧態依然で 30 年前と変わらない。ヨーロッパの旧市街を歩き、旧県道をクロスバイクで往来する筆者が考える改善案を次に記す。
- a) **岩田~下市**を **歩道**・**自転車レーン**・**車道**の 3 区分にして、バリアなしのカラー舗装にする。現状の歩道は幅 1m 弱で住居ごとに凸凹があり、小中学生の通学路として適切とは言えない。河本→岩田の車道を 1 車線の一方通行にする、沿道住民の理解を得られないという見方があるが、新県道と山陽団地を貫く市道幹線が並行して両側にあるため許容内と思う。歩行者天国や祭り行列ができ、沿道商店の賑わいも期待できる。岡山市内で県庁通りと あくら通りの一方通行が定着しているのを見ても、当市は考えを改めなければならない。
- b) **道路沿いの用水路**を暗渠にするか グレーティングで蓋をすれば安全で、拡幅もできる。

- ③ **中心市街地**：赤磐市の顔である中心市街地を再開発すれば市のイメージが一新する。旧山陽町時代から変わったのは中央図書館周辺だけである。それを妨げているのは **みのるグループ**の本社・工場群である。岡山駅近くの広い空地がイオンモールに生まれ変わったのを引き合いにするまでもなく、東京や大阪でも一等地相当区画が様変わりしたのは珍しくない。**みのる**も工場と研究圃場の移転で事業発展が期待できるはずだ。

行政トップが再開発プランを用意して、みのる経営陣と話しあえばどうか。この課題を都市計画の上位に据えて **まちづくり**を進めてもらいたい。

- ④ **桜が丘中央の未利用地**：ほぼ 6 千坪の残された地面を **憩いの森**に。乾いた桜が丘に潤いをもたらし、何より地球



温暖化抑制のミッションを赤磐・桜が丘が率先して実行する緑化の意義がある。道路を隔てた交流センター・桜が丘プラザ・消防機庫を併せたスペースを公民館と音楽ホールを一体化した施設にすれば、桜が丘中央に相応しい一画になるのではないかと願っている。岡山空港を離着陸するとき眼下に、大きな団地の真ん中に緑地が出現するのを願っている。左の写真はパリ・シャンゼリゼ大通りに沿う緑陰であるが、ここだけが車道の喧騒を忘れるような空間になっている。

[桜が丘中央の未利用地について] [見果てぬ夢]

- ⑤ **桜が丘周辺の自然を活かす**：団地周りの池と畔の保健保安林を手入れすればあちこちに親水公園ができて、憩いの場になる。各町内会に居る元気な若者たちに声を掛ければ奉仕してくれるのではないかと。また西10丁目の墓地用地とそこに連なる東6丁目背後の山林を樹林墓地公園にすれば、東南部の磐山～観音山と対称に西北部にも豊かな緑地が生まれて団地のイメージが変わると思う。

[桜が丘に緑と水を] [樹林墓地公園の提案]

- ⑥ **企業誘致**：山陽ふれあい公園東側の市道を昇りつめた先にジャパノロジスティックスの物流基地がある。以前の中古車競り施設が山陽ICの近くへ移ったが、またもや大型トラックが頻りに往来するようになった。山陽ICから県道27号を2km余の混雑要因と続く市道が急坂と3ヶ所のカーブで安全上の問題もあるのになぜここに誘致したのか。尾谷東部の高台にあるこの地は自然環境に恵まれた環境で、隣接の全3区画は教育、研究、福祉などの適地である。IPUや理科大、就実大などにサテライトキャンパスのニーズがあるかもしれない。

一方、山陽ICに近い河本・岩田地区の新拠点にコストコとナカシマHDを誘致の情報がある。前者は市民の消費生活と周辺交通への影響が心配であるが、後者は巨大船用プロペラメーカーが手掛ける先端技術の企業であり頼もしい期待がある。この地域整備に市が投じる莫大な予算に注目している。

- ⑦ **山陽団地の活性化**：遅々として進まないのはなぜか、ぐずぐずしていると高齢化が加速して「過疎団地」になってしまう。行政と議会がどれほど真剣に取り組んでいるのか見えてこない。住民参加で集中して問題解決に向うべきだと思う。桜が丘中央の未利用地についても言えるが、元来**土地は地域の公共財**であるのに個人の私権に拘りすぎては事が進まない、一部の問題を理由に実行しないのは行政の怠慢ではないか。

おわりに：未だに赤磐警察署が岡山市の東区瀬戸町にある、郵便局も赤磐市役所前の特定局にATMがないなどインフラが甚だプアである。そもそもが赤磐市の生い立ちにあることを、今更ながらであるが言っておきたい。

JR瀬戸駅が扇の要である旧赤磐郡5町がそのまま新しい市になるべきだったのが、当時の首長と議員達の偏見？で瀬戸町が外れる事態になった。理由は新市庁舎を瀬戸に置く条件を4町側が呑めなかったからと聞いている。旧山陽町の住民有志が5町合併を唱えた署名活動で予期以上の筆数を集めたが、山陽町議会はこれを無視して4町合併に踏みきった。地政学的視野に欠けた一部の人の失策が招いた結果である。首長や議員の見識が問われただけでなく、彼らを選んだ住民の自治への参画意識の低さにもよるの言うまでもない。

来年3月の市長選・市議選を前に、公約が本物かどうかを見極めて住民が選挙に臨むように改めて訴えたい。行政はトップの理念とリーダーシップ、実行力によって大きく変わる。自分たちの暮らしを委ねるに足る人を選びたい。若くから政治に関心を持ち続け選挙ばかを自認する私ですが、当面の国・県・地元のすべての選挙をラストチャンスと思っています。

(終)

2024年10月27日

中西 卓

709-0802 桜が丘西8-25-8

tel: 086-608-1321

E mail: naktak@sky.megaegg.ne.jp

各項目の[]は過去の拙稿ですが、ご連絡いただければメールなどで届けます。

送信・配布先：赤磐市環境基本条例の会 市役所担当部門 その他

燻ちゃんプロジェクト(要旨)

一生物系廃棄物における炭素窒素貯留および腐植化技術 ※1

Carbon and Nitrogen Sequestration and Humification Technology on Biomass Waste

生物系廃棄物における炭素や窒素、ミネラルを貯留し、腐植化して土壌へ還す技術が開発された。これは生ごみや汚水汚泥等の廃棄物の新しい処理法で、従来の埋め立てや堆肥化、焼却とは異なる方式である。廃棄物は、燻留窯や凝縮器、熱風炉等を組み合わせた「低酸素熱風密閉式循環システム」に基づいて「燻留 - 凝縮」工程で処理し、燻留窯で燻留乾燥や殺菌消臭、固液分離、腐植化・無機化される。燻留窯の燻煙は大気へ排出せず、燻煙の中の蒸発液は凝縮器で気液分離、凝縮回収され、「生物酢液」に製品される。一方、燻し乾いたバイオ資材は炭素や窒素等が貯留され、しかも炭水化物やタンパク質などが分解され、腐植化・無機化され、「腐植素」(炭素窒素剤や腐植栄養素)に製品される。循環型社会にふさわしく排ガス、排水なしで、「生物酢液」と「腐植素」が産物である。

この燻す生ごみ処理法では、ダイオキシンや温室効果ガス、有害物質のゼロエミッションを実現し、生物系廃棄物の炭素や窒素、ミネラルなどの栄養元素を100%生態貯留し、土壌に還すことでその物質生態循環が生かせ、土壌を肥やし、土壌有機炭素貯留量を増やすことができ、地球温暖化の防止、継続的な開発をすることを促進できる。

この「炭素窒素腐植化技術」により、地球の環境に対して人間の悪い影響を基本的に消去でき、オゾン層破壊や地球温暖化、大気汚染、水汚染、土壌汚染、土壌肥沃度低下、土地砂漠化、資源の枯渇、エネルギー危機、食品安全などの環境問題をすべて解決できる。これは環境・土壌・エネルギー生態発展技術である。

生ごみの新しい処理方法とシステムとして、初期建設コストは焼却処理の15%以下である。

※1 矯学真, 矯学成, 池田捷, 「生物体廃棄物における物質循環技術及び設備」, 日本特許庁への特許出願中, 特願 2011-103915. 2011年5月8日



燻ちゃんプラントー1号機

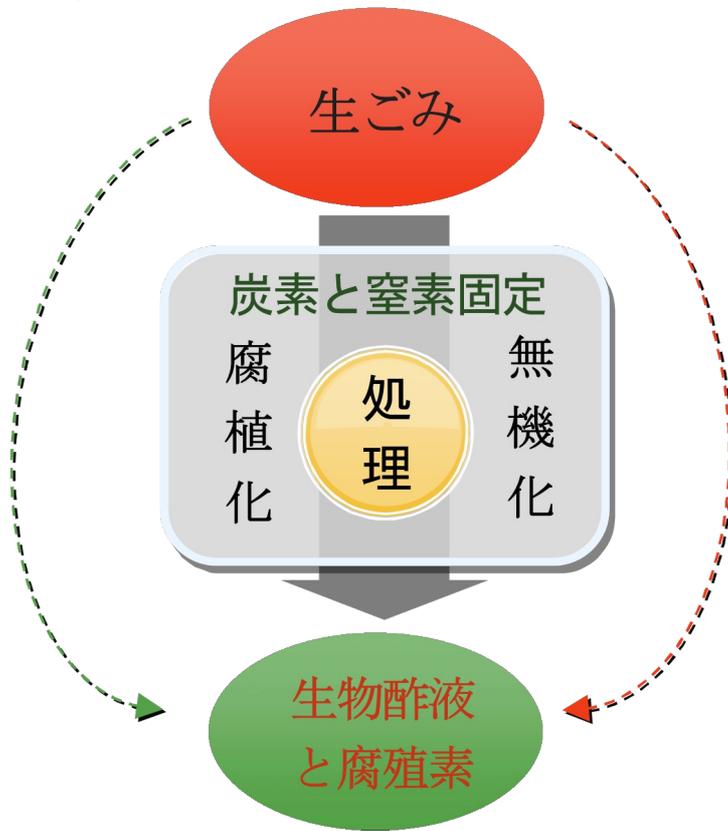
燻ちゃんプラントー2号機

燻ちゃんプラントー3号機

2011年4月完成

2011年9月完成

2012年9月完成





「燻ちゃんプロジェクト」メンバー

腐植素の比較実験 1

腐植素の比較実験 2